

造影 CT 検査を受けられる方へ

今回実施する検査は「造影剤」という薬剤を使用して行う検査です。国際医療福祉大学病院で造影剤を用いた検査を受けられる方には、あらかじめ「造影剤を用いる検査に関する同意書」にご記入をいただいております。

以下の説明をお読みになり、納得頂けましたら同意書へ署名をお願い致します。

1. 造影検査を実施できない場合について

添付文書に記載があります禁忌・原則禁忌に該当する方は、副作用の発現率が高くなるため当院では造影検査を行いません。

また、過去3カ月以内の血清クレアチニン値が2.0ml/dl以上の場合も同様に実施できません。あらかじめご了承下さい。

【禁忌】

1. ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者
2. 重篤な甲状腺疾患のある患者 [ヨードが甲状腺に集積し、症状が悪化するおそれがある]

【原則禁忌】

1. 一般状態の極度に悪い患者
2. 気管支喘息のある患者 [副作用の発現頻度が高いとの報告がある]
3. 重篤な心障害のある患者 [本剤投与により、血圧低下、不整脈、徐脈等の報告があり、重篤な心障害患者においては症状が悪化するおそれがある]
4. 重篤な肝障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある]
5. 重篤な腎障害(無尿等)のある患者 [本剤の主たる排泄経路は腎臓であり、腎機能低下患者では排泄遅延から急性腎不全等、症状が悪化するおそれがある]
6. マクログロブリン血症の患者 [類薬において静脈性胆嚢造影で血液のゼラチン様変化をきたし、死亡したとの報告がある]
7. 多発性骨髄腫の患者 [多発性骨髄腫の患者で特に脱水症状のある場合、腎不全(無尿等)があらわれるおそれがある]
8. テタニーのある患者 [血中カルシウムの低下により、症状が悪化するおそれがある]
9. 褐色細胞腫のある患者及びその疑いのある患者 [血圧上昇、頻脈、不整脈等の発作が起こるおそれがあるため造影検査は避けること。やむを得ず造影検査を実施する場合には静脈確保の上、フェントラミンメシル酸塩等の α 遮断薬及びプロプラノロール塩酸塩等の β 遮断薬の十分な量を用意するなど、これらの発作に対処できるよう十分な準備を行い、慎重に投与すること]

2. 造影剤について

CT 検査による画像診断において、その情報量を増やすために画像にコントラストをつける検査薬です。通常は水溶性ヨード造影剤を静脈内に注射します。腎機能が正常であれば、造影剤は注射後6時間で約90%が腎臓から尿として排出され、やがて全てが体外に排出されます。

3. 造影剤を使用することの利点について

静脈内に注射された造影剤は、血管を介して全身の臓器に分布します。これにより、腫瘍の良性悪性の区別、炎症の有無、血流状態などがわかり、画像診断上重要な情報が得られます。

4. 造影剤による副作用に関する危険因子について

アレルギー体質の方は副作用を生じる可能性が通常の約 3 倍、中でも喘息の方は約 10 倍多いといわれています。また、腎機能が悪い方では造影剤の影響でさらに悪化することがあります。

次に該当する方は検査の前に担当者にお知らせください。

- ・今までに造影剤を使用して具合が悪くなったことがある
- ・自分及び血縁者の喘息アレルギーがある
- ・腎機能が悪い

5. 造影剤使用の危険性について

現在、より副作用の少ない造影剤が主流で、国際医療福祉大学病院でも採用していますが、それでも、副作用発生の危険性を全く無くすることはできません。軽微な副作用も含めて、約 3%の方に何らかの副作用が生じるといわれています。

造影剤の副作用には、検査中や直後に生じる即時性のものと、検査後、数時間から数日後に起きる遅延性のものがあります。

5-1. 即時性副作用

軽い副作用（100 人に 3～5 人の頻度）

吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、じんましん、発疹、かゆみ、手足のむくみ
発熱、せきなど

重い副作用（2500 人に 1 人の頻度）

意識障害・呼吸困難・血圧低下など

ショック症状により、10～20 万人に 1 人の割合で死に至る報告もあります。

5-2. 遅延性副作用

稀に検査後、数時間から数日後に、倦怠感、頭痛、じんましんが出る場合があります。

6. 緊急時の対応について

6-1. 即時性副作用

検査中は、担当医あるいは看護師、診療放射線技師が注視していますので、何かあれば即時、必要な対処（処置・治療）をいたします。

6-2. 遅延性副作用

検査終了後、数時間から数日後に遅延性副作用が現れた場合は、早めに国際医療福祉大学病院までご連絡ください。時間外（夜間）休日でも日当直医が対応いたします。

7. 糖尿病薬の服用について

下記の糖尿病薬を服用されている方は、造影剤との併用により副作用が増加する可能性があります。このため、造影検査後 48 時間は糖尿病薬を休薬してください。

腎機能障害があっても造影検査を行う場合は検査後の休薬のほかに、検査 48 時間前にも休薬が必要となります。

一般名	製品名
メトホルミン	グリコラン錠 250mg、メデット錠 250mg メトグルコ錠 250mg、ネルビス錠 250mg メトホルミン塩酸塩錠 250mg「トーワ」「JG」、 メトリオン錠 250、メタクト配合錠 LD HD
ブホルミン	ジベトス錠 50mg、ジベトン S 腸溶錠 50mg、

8. 授乳中の方へ

造影剤は母乳中にも排泄されるため、検査後 48 時間は授乳はできません。